

12章 取得するデータ数の上限を設定しよう

12章 取得するデータ数の上限を設定しよう

SQLで取得するデータ数の上限を設定する方法を学びます。

本章の目標

- SQLで取得するデータ数の上限を設定する方法を知ること

12章 データ数の上限設定の必要性

これまでは取得するデータ数の上限を特に設定せず、条件に当てはまるデータをすべて取得してきました。

本章では、取得するデータ数の上限を設定する方法を学びましょう。

12章 LIMIT句で取得するデータ数の上限を設定しよう

アプリやサービスでは、例えば「1ページあたり10件だけデータを表示したい」というように、指定した数だけデータを取得したい場面が出てきます。

そこでよく使うのが、SQLのLIMIT句です。

LIMITは「制限する、限定する」という意味で、取得するデータ数の上限を設定するコマンドです。

例： `LIMIT 10` のように上限を指定すれば、取得するデータ数が最大でも10件になります。

12章 LIMIT句の書き方

LIMIT句の基本的な書き方は以下のとおりです。

-- 指定した最大件数までのデータを取得する
SELECT カラム名 **FROM** テーブル名 **LIMIT** 最大件数;

注意点

- LIMIT句はSELECT文と組み合わせて使用
- 取得するデータの最大件数を制限

12章 LIMIT句を使ってみよう

最大件数を10件に指定して、すべてのカラムのデータを取得してみます。

```
SELECT * FROM users LIMIT 10;
```

実行結果

LIMIT句に指定した10件のデータが取得されていることがわかります。

12章 まとめ

LIMITは「制限する、限定する」という意味で、取得するデータ数の上限を設定するコマンドです。

-- 指定した最大件数までのデータを取得する
SELECT カラム名 **FROM** テーブル名 **LIMIT** 最大件数;

活用場面

- ページネーション（1ページあたりの表示件数を制限）
- ランキング表示（上位N件のみ表示）
- サンプルデータの取得（一部のデータのみ確認）